

平成30年5月15日(火)  
和歌山市第4在宅医療・介護連携推進センター研修会  
(県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛)  
アンケート結果

参加者数	56
アンケート回収数	48
アンケート回収率	85.7%

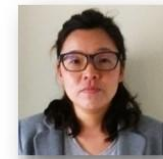
〜食べているだけではいけない。アセスメントのポイントを教えます〜

在宅での栄養管理のポイント

研修会

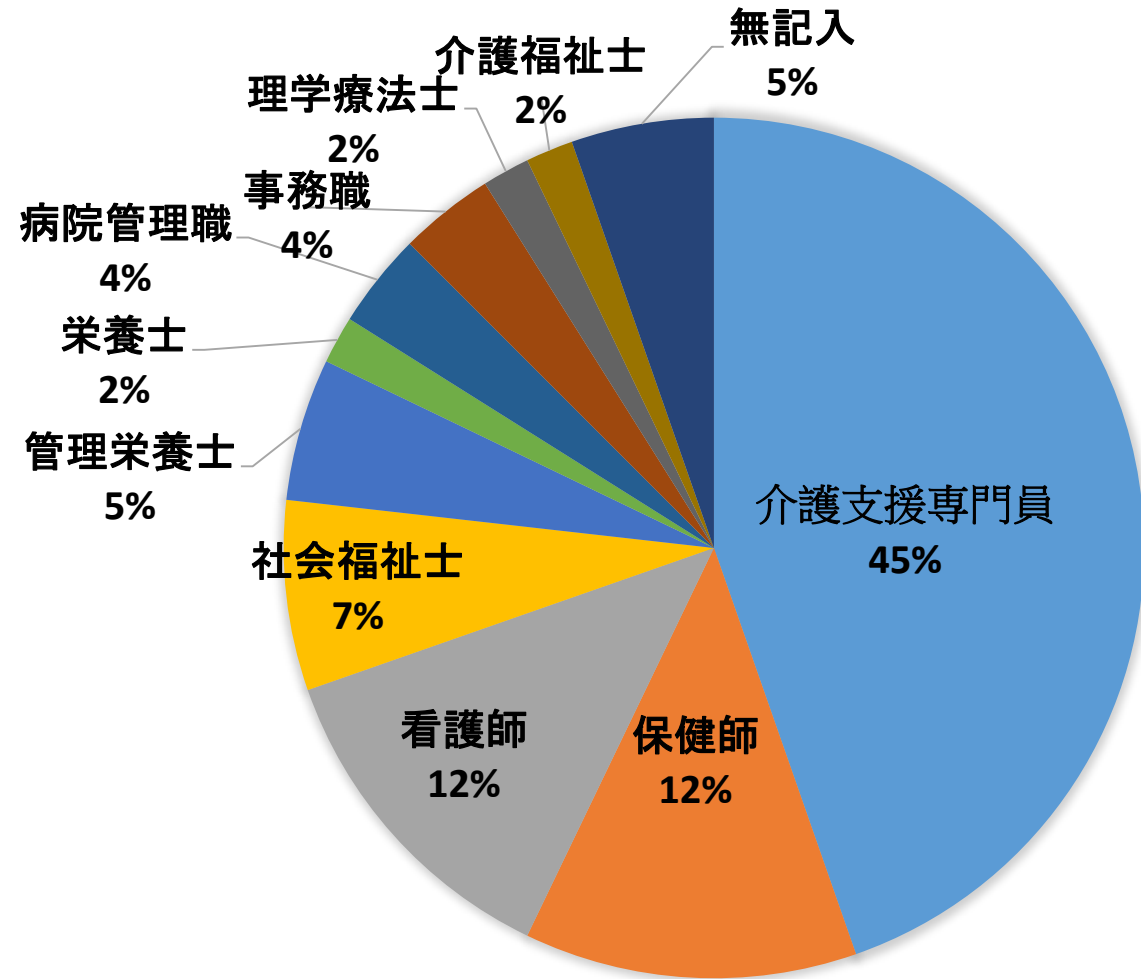
医療・介護の関係者を対象に、在宅療養の基礎となる栄養について、療養指導やケアプランの立案にいかすためのポイントを学ぶ研修会です。

- 日時 2018年 5月15日(火)  
14:00~15:30
- 場所 県民交流プラザ 和歌山ビッグ愛  
12階 1201会議室  
和歌山市手平2丁目1-2
- 講師  
わかやま栄養ケア・ステーション すみれ  
管理栄養士 伊藤智子氏
- 対象 地域の医療・介護関係者
- 定員 60人(事前申込要)
- 申込方法 参加申込書(裏面)に必要事項を  
記入の上FAXをお送りください
- 申込締切 平成30年5月8日(火)



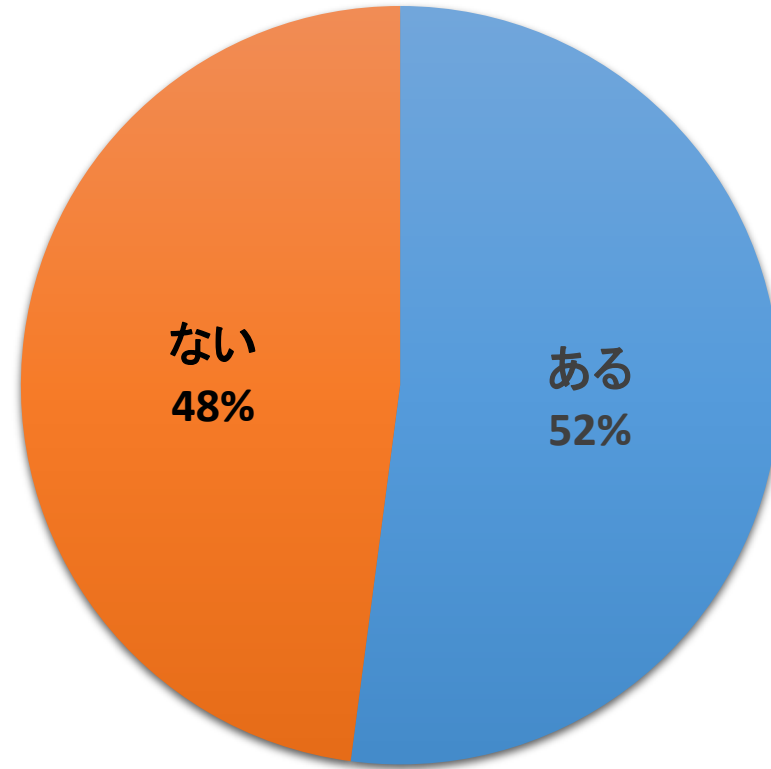
# 職種別参加者

職種別参加者	
介護支援専門員	25
保健師	7
看護師	7
社会福祉士	4
管理栄養士	3
栄養士	1
病院管理職	2
事務職	2
理学療法士	1
介護福祉士	1
無記入	3
合計	56



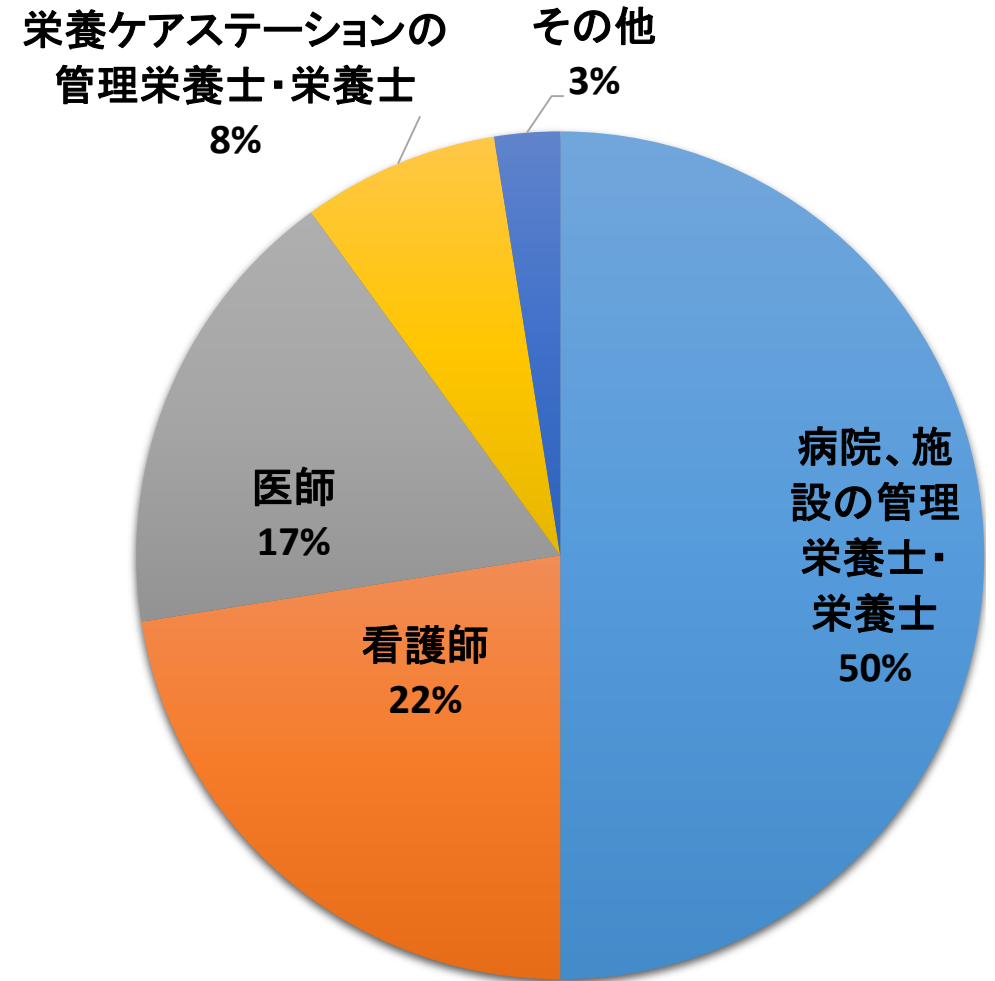
# 1. 食事や栄養について相談をしたことがありますか？

ある	25
ない	23



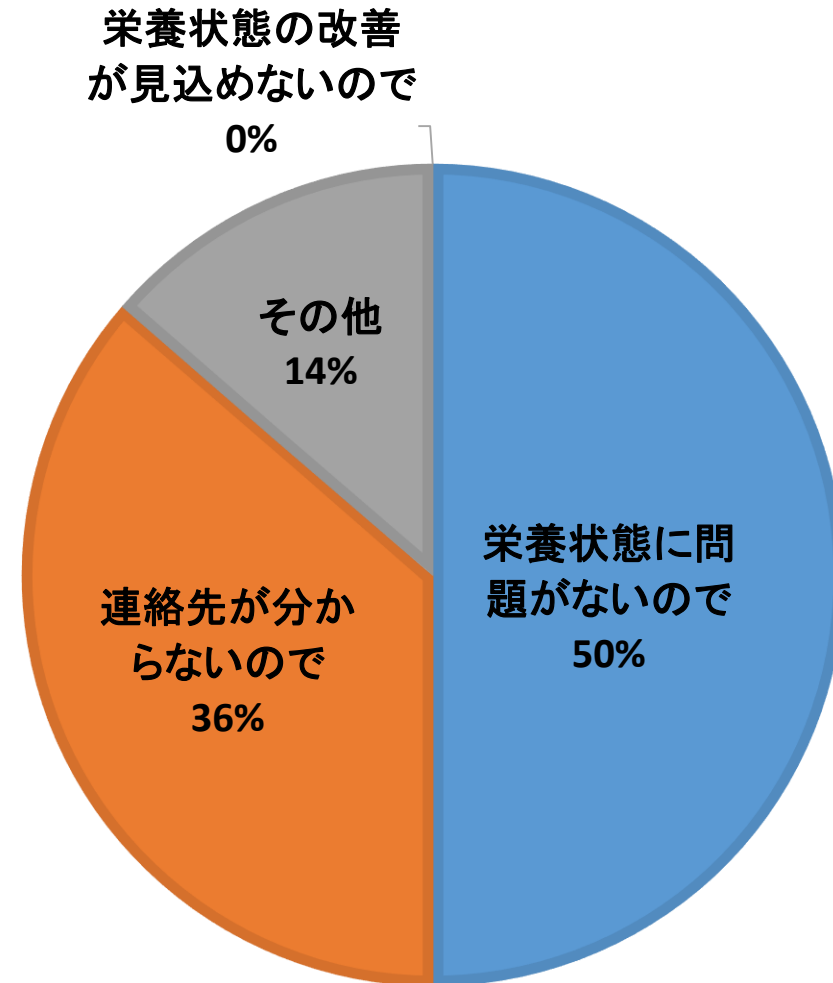
## 2. 1であると答えた方、相談先を教えてください。(複数回答可)

病院、施設の管理栄養士・栄養士	20
栄養ケアステーションの管理栄養士・栄養士	3
医師	7
看護師	9
その他 【内容】 訪問看護ステーションに相談すると管理栄養士に連携してくれた	1



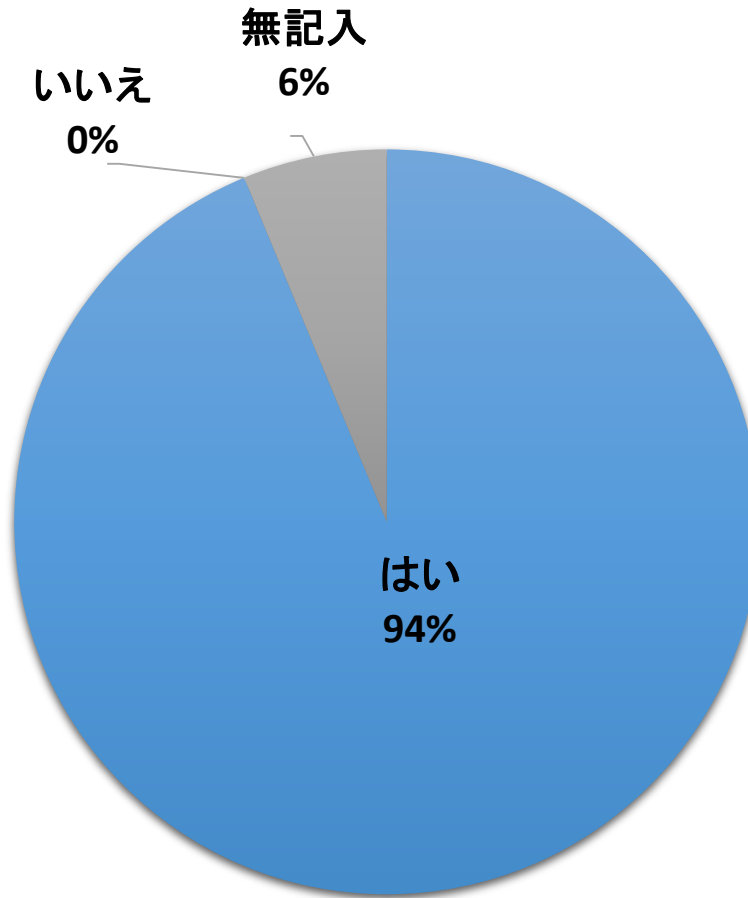
### 3. 1でないとした方、その理由を教えてください。(複数回答可)

栄養状態に問題ないので	11
栄養状態の改善が見込めないので	0
相談先が分からないので	8
その他 【内容】 ・独居が多い。 ・高齢になると食べたいものを好きだけ食べさせてあげたいと家族が考えることが多いから ・自分自身が栄養士であるため ・あまり気にしていなかった	3



#### 4. 在宅栄養支援において、管理栄養関わりが必要と思いますか

はい	45
いいえ	0
無記入	3



「はい」とお応えいただいた方にお聞きします  
例えばどのような時に栄養管理士の関わりが必要と考えますか

NO1

- ・自宅で高齢者夫婦の世帯など
- ・食事指導が必要な場合(病気に関しての)
- ・疾患によつての関わりが重要だと思います。
- ・退院後の食事、栄養について高齢の方への支援・病状等により栄養管理が必要な時、特に考える。在宅での(調理を含め)食事は高齢者でなくても困難な面があるため
- ・訪問看護が導入されていない時に調理をしているヘルパーに対しての指導等。
- ・糖尿病や腎臓疾患、人工透析を受けられている方が多く、食事管理が重要であり、ご家族の認識も薄いことが多いため管理栄養士の関わりは重要と考えます。
- ・独居の方などは食事の偏りがみられ栄養状態にも影響がある。食生活を見直すことで、骨折や病気も減るのではないかと思う。
- ・高齢者で低栄養の方、食事量はたりているのに数値が低い方への栄養指導、特に在宅の方にぜひ、訪問する機会をつくってほしいです。
- ・栄養バランスや調理方法など、情報提供をして頂けることを期待し必要と考えます。
- ・食事療法の必要性について、医師や看護師の指導ではあまり理解を得られなかったケースで、調理の実践指導は効果的だったと思います。(栄養ケアステーションに相談されたことがある方より)
- ・塩分やカロリー制限があるのに守れていないとき。
- ・自分の担当している方が腎臓が悪く、家族から減塩食を食べるように言われている。  
減塩食では味が薄いため食欲がわかず食べてくれない。どのようにすれば食べれるようになるかを教えてほしい。
- ・介護している家族が食事について重要にとらえていない(調理をしない)場合。
- ・嚥下低下の著しい高齢者を在宅で介護する場合など
- ・老人、認知症の食べない方の関わりが難しい。なぜ食べないのか、どうしたら食べてくださるのかを家族と共に考える場合、栄養士さんのアセスメントがほしい。

## NO2

- ・褥瘡の発生や治癒しない場合、栄養状態の改善や見直しが必要な時など
- ・病院から在宅への退院の時など家族や本人に対して、栄養の大切さや必要性などについて関わってもらえると嬉しい。
- ・料理の意欲低下や栄養不安のある方などに積極的に関わっていただければ、ご本人の意欲がアップし在宅生活も続けられるのではと思います。
- ・高齢者の低栄養や、疾患等で栄養管理が必要だが自分達だけでは難しい為、専門家のサポートが必要と思われる。
- ・疾患別食事指導 嚥下困難者の家族への調理指導
- ・点滴で栄養を補っている方に対して、口からの栄養補給方法か食の楽しみの見出し方のアドバイスあればよい。
- ・退院支援
- ・嚥下食の相談、作り方、トロミ剤の特徴を知っていて適切なものを選定してくれた。家族の協力、本人のリハビリへの取り組みもあり、水分にとろみは必要であったが普通食が摂取できるようになった。(訪問看護ステーションから栄養ケアステーションに連携してもらえた方より)
- ・Drからの制限があったにもかかわらず、本人の病識が乏しく、制限が守れない時など専門職の方からの指導は有効だと思います。定期的に訪問し、相談や援助をして頂くことで、病状の改善、体力の改善が図れると思います。又、脱水や低栄養が、みうけられると、すぐに点滴を考えてしまうのですが、栄養指導を受ける事で口からの栄養・水分の摂取が可能になれば御本人の意欲の改善につながると思います。
- ・透析をしている方で食事や水分量が自己管理できない方
- ・食事制限があり、家族等が理解できていない為
- ・食事の作り方、選び方を伝える。食事に楽しみを持ってもらう等を、伝えることは大切だと思います。
- ・専門的な視点から改善策を見つけられるかもしれないので、低栄養等の診断を受けた人からの相談があった時に、関わりがあればいいと思います。
- ・専門的な視点で、わかりやすく説明することで理解を得られやすいと思います。



## NO3

- ・疾患に対して応じた食事指導、高血圧→塩分制限 HD→K制限など
- ・食欲のない方への食べやすい食事内容。
- ・夏に向けての脱水予防、食べやすい食事
- ・在宅でご家族が、食事を作ることができるなら援助して頂けると思います。
- ・化学療法など治療期で食欲低下している人への食事の工夫として、援助して頂けると思います。
- ・低栄養や脱水状態になった時
- ・本人の生活の質の向上のため、楽しみや生きがいへとつながるため、調理の工夫など本人への認識を深めたり、意欲向上へとつながるため。
- ・独り暮らしの高齢者が、同じものばかり食べていたり、好き嫌いが多い場合、糖尿病や高血圧等の病気があるが、食事のことを気にしていない人への関わり。
- ・特別食が必要な方で、在宅療養したい方には管理栄養士が必要だと思います。
- ・術後に食欲がなく亡くなった利用者様があり、気付きということがなく、なぜと言う気持ちがあります。このような事がなくなったらいいと思います。
- ・人生の最期まで「口」は使う。在宅療養が更に増加する中、より豊かな人生になるには活動や生きる上でのエネルギーとして食生活が基本となる。今後、医師とケアマネとの更なる連携をすすめていき、市民に対しても、CSの存在も含め周知する必要があると思う。大変参考になりました。
- ・高齢者が手軽にできる調理、効果的な栄養の摂り方
- ・知識が乏しいし、在宅生活を継続していく上で食生活が重要と思うので関わりが必要と考える
- ・食事制限のある方の調理法、栄養状態の悪い方への食事内容

## 5.管理栄養士・栄養士へのご意見、ご要望をお聞かせ下さい

- ・相談窓口がどこにあるのかわかりやすいパンフレットなどが、あればよいと思います。
- ・食形態や何をどれだけ何時食べるか？ という質問は、とても重要だと思いました。毎日3食ある食事だからこそ常態化しており、意識的に食事摂取しないと、なかなか考えずに普段過ごしていると思います。少し意識化して、食生活を考えていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・和歌山市内でも、市外でも対応して頂けるのか。在宅に行き、栄養指導をしても本人がそれをするか、評価を誰がするか、ケアマネができるか、本人が「改善した。よかった。続けよう。」と思うようにできるかも大切かと思いました。
- ・施設には管理栄養士さんがいらっしゃいますが、訪問系のステーションにはいません。Nsと訪問できるようにならないですか？今は在宅、在宅で過ごすのであれば、経口摂取が大事なので、どんどん訪問する機会があればと思います。
- ・コンビニ食材でできる料理等、料理教室があればよいと思います。
- ・今まであまり連携させてもらうことがなかったのは、ニーズがあるけど利用しにくい感じがあるからなのかなと思いました。どうしたら…
- ・Drの指示が必要なので関わりづらいことがある。栄養ケアST専属のかかりつけ医などがあれば頼み易い。栄養の視点を分かり易く聞くことができてよかったです。
- ・ケアマネが、プランにくみこみやすい制度になりますように。
- ・ただお腹いっぱい食べていればOKではなくて、トータルでみる大切さがよく理解できました。
- ・今回の研修で栄養士の方が、在宅へ訪問してくれることがよく分かりました。利用者さん宅への訪問以外に、介護者達が気軽に相談できる窓口があればいいなと思います。